

# ① 良い種を用意する 〈3月下旬～4月中旬〉

(2)

## ② 種の病原菌を殺す (種子消毒) 〈3月下旬〉

種にはふつう、いもち病やばか苗病\*などの病原菌がついています。これらの病原菌を殺すため、薬を使って消毒します。最近では、農薬を使用しないで消毒する温湯消毒(右写真)も普及しています。

\* ばか苗病=ひよろひよると苗が伸びてしまう病気



60℃のお湯に10数分ほど浸すと薬剤と同じ殺菌効果が得られる

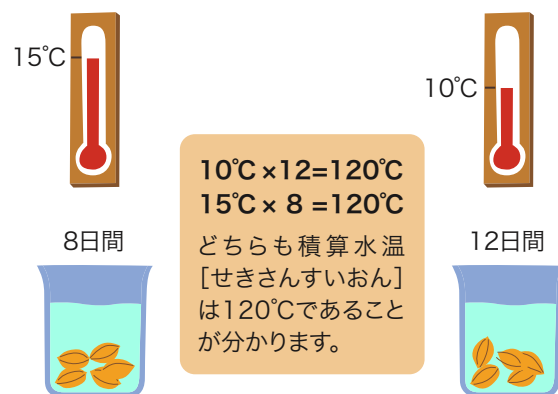
## ③ 種に水分を吸収させる (浸種) 〈3月下旬〉

種に水を吸わせるのは、発芽に必要な水分をあたえることと、発芽をそろえるねらいがあり、種の重さが25%くらい増えるまで水を吸わせます。

水に浸す日数は、水の温度と関係しており、毎日の平均水温を足して120度(これを積算水温といいます)

になる日数がだいたいのめやすです。

たとえば平均水温が10度では12日間、15度では8日間です。均一に水を吸わせないと発芽が不揃いになるので、種袋を水の中で上下に揺らしたりして水の吸収を助けます。



## ④ 発芽をそろえるため、種を温める (催芽) 〈4月中旬〉

十分水を吸わせた種に、30～32度の温度を20時間くらい加えて、いっせいに発芽させ、芽の長さを1ミリメートルくらいの長さにします。発芽をそろえるのは、その後の田植えをしやすくし、成長の管理を効率的に行うためです。

おいしい米づくりのひみつ 種子更新 [しゅしこうしん] ▶ 23ページをみてね!